

競技のルール・試合の進め方 ※赤文字は区大会との変更点

- (1) 全国障害者スポーツ大会のボッチャルールを準用するほか、レクリエーションルールにて実施。
- (2) コートの大きさは、市長杯決勝大会の一般の部は 12.5m×6m のフルコート)、小学生以下の部は通常の半分の 6m×3m のハーフコートを用い、スローイングボックスは2つに分けて使用。
- (3) 1チーム3名のチーム戦とし、試合ごとに各チームは選手3名を選出し対戦。
- (4) 試合は2エンド（先攻後攻を交互に1回ずつ）を行い、2エンドの総得点で勝敗を決定。同点の場合は、**タイブレイク（決戦投球）により勝敗を決し、順位を決定する。**
- (5) 各リーグの順位は、勝敗数、得失点差、総得点により決定。それでも順位が決まらない場合は**タイブレイク（決戦投球）により決定。** ※順位決定時のみ
- (6) 組み合わせは各組3～4チームによる総当たりの予選リーグ戦を実施。**一般の部・小学生以下の部とも、各リーグの1位と2位チームによる決勝トーナメント（又は決勝リーグ戦）を実施。なお、小学生以下の部は、5・6位、7・8位決定戦も実施する。**
- (7) 大会当日、急病等により3名未満となった場合は、オープン参加として扱う（決勝トーナメントへの進出や、表彰の対象とはしない）。
- (8) 棄権チームがでた場合は、対戦相手が3-0で勝利したものとする。
- (9) 介助やサポートが必要な場合は、介助ビブスを申請・着用のうえ、一緒にコートに入ってサポートOK（お子さんなどへの助言もOK）。※介助以外でサポートする場合は、ボックスの後ろで行うよう声掛けください。なお、**やむを得ない場合は、選手と介助を兼ねることが出来る。**
- (10) 各試合前に2分間のウォーミングアップを実施する。ウォーミングアップは、**ジャックボールは事前にクロスに設置し、2分間経過、または6球全てのボールの投球が終わった時点で終了。**なお、**各チームの2試合目以降は、6球の投球が終わった時点で終了とする。**また、両チームから希望がない場合は実施しない。
- (11) 円滑な大会運営のため、**持ち時間制を採用し、各チーム1エンドあたり2分間とする。ただし、ランプを使用する選手がいるチーム、視覚障害のある選手がいるチームは、持ち時間を5分間（状況により応相談）とする。**各チームともご協力をお願いします。**なお、試合中の持ち時間の残時間は審判がイングリッシュまたは日本語でコールする。**
- (12) 先攻後攻はコイントスで決定（先攻が赤ボール、後攻が青ボール）。ジャックボールの投球順序は、第1エンドは先攻（赤ボール）チームの選手、第2エンドは後攻（青ボール）チームの選手が行う。
- (13) 投球は、自陣の中であればどこから投げてもOK。投球順序も自由。ただし、審判の指示があったから投球とします。**（投球は一人2球。一人が3球などの投球は不可とし、誤って投球した場合はリトラクション（ボール除去）とする。）**
- (14) 試合中は、**持ち時間内において、コート内に入りボールの状況を間近で確認OK。**コート内では、ボールに触れて動かしてしまわないよう注意喚起をお願いします。
- (15) 相手が全ての投球を終え、有利な局面となった場合は、「投球をしない」こともできます。この場合は審判に宣告し、残ったすべてのボールをボックス前に置いてください。
- (16) 【小学生以下の部のみ】違反行為があった場合でも注意のみとしゲームを継続します。**「ラインを踏みそう」など、ファールとなりそうな場合、投球前に声掛けを行い、ファールとならないよう未然の声掛けをお願いします。**

(17) 【一般の部のみ】 ファール（違反行為）があった場合でも注意のみとしていましたが、ファールが連続してしまうと公平な試合が難しくなるため、ファールを取ることとします。主なファールは次のとおりで、これらの違反があった場合は、リトラクション（ボール除去）とします。

- ・ ラインを踏んで投球した場合
- ・ 同時に投球した場合
- ・ 審判の指示がある前（自分の色のパドルが示される前）に投球した場合
- ・ ランプを使用する選手のランプオペレーターが、試合中のコートを見た場合等

なお、投球ボールが、有効ボールに当たり盤面が変わってしまった場合は、①主審副審で協議し可能な限り現状復帰します。② ①が不可の場合はエンドのやり直しをお願いします。

(18) 用具は主催者で用意し、ランプが必要なチームには貸出します。